

【千葉地域】平成 30 年度 飼料用米多収品種現地実証展示ほ 成績の概要

1 展示の概要

設置場所	市原市	品種	夢あおば
土性	壤質土	播種日	4月21日
播種量	220g/箱	移植日	5月11日(疎植)
幼穂形成期	7月2日	出穂期	7月23日
成熟期	9月8日	収穫日	9月21日

2 結果の概要(成熟期の調査結果と収量)

稈長	84cm	穂長	23cm
穂数	299本/m ²	倒伏程度	0
粗玄米重	662kg/10a	標準単収値	517kg/10a

3 多収に向けた栽培管理のポイント及びその取組実績

(1) ほ場の土づくりの実施

- ・堆肥種類：鶏糞
- ・施用量：500kg/10a
- ・施用時期：平成30年2月

(2) 多収品種に必要な量の施肥 ※推奨量は、ページ下の参考のとおりです

- ・(基肥) N量：7.0kg/10a ※肥料銘柄：オール14
 - ・(追肥) N量：1.4kg/10a ※肥料銘柄：オール14
- 追肥実施日：7月3日

(3) 冷害を避けるための適期の移植

- ・移植日(5月中旬を推奨)：5月11日

(4) 適切な栽植密度、植付本数で植え付ける

- ・栽植密度(55株/坪を推奨)：42株/坪
- ・植付本数(4~6本/株を推奨)：4.1本/株

4 考察等

栽培管理のポイントに基づいた管理を実施し、高い収量を得ることができた。

(参考) 多収品種に必要な施肥量

	夢あおば
基肥 N 量	9 kg/10a (壤質土の場合)
穂肥 N 量	3 kg/10a

※穂肥は、幼穂形成期(幼穂が1~2mmの時期)に施用します

【東葛飾地域】平成30年度 飼料用米多収品種現地実証展示ほ 成績の概要

1 展示の概要

設置場所	柏市	品種	夢あおば
土性	埴壤土	播種日	4月2日
播種量	5kg/10a(乾田直播)	移植日	-
幼穂形成期	7月1日	出穂期	7月22日
成熟期	9月13日	収穫日	9月25日

2 結果の概要(成熟期の調査結果と収量)

稈長	80.4cm	穂長	23.5cm
穂数	311本/m ²	倒伏程度	0
粗玄米重	480kg/10a	標準単収値	507kg/10a

3 多収に向けた栽培管理のポイント及びその取組実績

(1) ほ場の土づくりの実施

- ・堆肥種類：BMようりん
- ・施用量：20kg/10a
- ・施用時期：平成30年2月6日

(2) 多収品種に必要な量の施肥 ※推奨量は、ページ下の参考のとおりです

- ・(基肥) N量：8.8kg/10a ※肥料銘柄：発酵鶏糞及び石灰窒素
 - ・(追肥) N量：2.8kg/10a ※肥料銘柄：高度化成
- 追肥実施日：7月9日

(3) 冷害を避けるための適期の移植

- ・移植日(5月中旬を推奨)：-

(4) 適切な栽植密度、植付本数で植え付ける

- ・栽植密度(55株/坪を推奨)：-(条間30cm)
- ・植付本数(4~6本/株を推奨)：-

4 考察等

部分的な雑草被害や紋枯病の発生があったため、実収量はやや低くなったが、坪刈り収量は634kg/10aであり、乾田直播によっても高い収量を得ることができた。

(参考) 多収品種に必要な施肥量

	夢あおば
基肥N量	9kg/10a(壤質土の場合)
穂肥N量	3kg/10a

※穂肥は、幼穂形成期(幼穂が1~2mmの時期)に施用します

【印旛地域①】平成30年度 飼料用米多収品種現地実証展示ほ 成績の概要

1 展示の概要

設置場所	成田市	品種	アキヒカリ
土性	壤土	播種日	3月12日
播種量	130g/箱	移植日	4月10日
幼穂形成期	6月8日	出穂期	6月30日
成熟期	8月6日	収穫日	8月6日

2 結果の概要(成熟期の調査結果と収量)

稈長	69.4cm	穂長	19.9cm
穂数	420本/m ²	倒伏程度	0
粗玄米重	650kg/10a	標準単収値	540kg/10a

3 多収に向けた栽培管理のポイント及びその取組実績

(1) ほ場の土づくりの実施

- ・堆肥種類：発酵鶏糞
- ・施用量：60kg/10a
- ・施用時期：－

(2) 多収品種に必要な量の施肥 ※推奨量は、ページ下の参考のとおりです

- ・(基肥) N量：8.4kg/10a ※肥料銘柄：高度化成14
 - ・(追肥) N量：3.3kg/10a ※肥料銘柄：軽量追肥
- 追肥実施日：5月20日

(3) 冷害を避けるための適期の移植

- ・移植日(5月中旬を推奨)：4月10日

(4) 適切な栽植密度、植付本数で植え付ける

- ・栽植密度(55株/坪を推奨)：53株/坪
- ・植付本数(4～6本/株を推奨)：4.6本/株

4 考察等

6月中旬の低温や、6月下旬の強風による不稔の発生があったが、栽培管理のポイントに基づいた管理の実施によって、高い収量を得ることができた。

(参考) 多収品種に必要な施肥量

	アキヒカリ
基肥N量	6kg/10a(壤質土の場合)
穂肥N量	3kg/10a

※穂肥は、幼穂形成期(幼穂が1～2mmの時期)に施用します

【印旛地域②】平成30年度 飼料用米多収品種現地実証展示ほ 成績の概要

1 展示の概要

設置場所	成田市	品種	べこごのみ
土性	壤土	播種日	3月12日
播種量	130g/箱	移植日	4月10日
幼穂形成期	6月1日	出穂期	6月25日
成熟期	8月6日	収穫日	8月6日

2 結果の概要(成熟期の調査結果と収量)

稈長	72.7cm	穂長	20.3cm
穂数	312本/m ²	倒伏程度	0
粗玄米重	510kg/10a	標準単収値	540kg/10a

3 多収に向けた栽培管理のポイント及びその取組実績

(1) ほ場の土づくりの実施

・堆肥種類：発酵鶏糞	・施用量：60kg/10a
・施用時期：－	

(2) 多収品種に必要な量の施肥 ※推奨量は、ページ下の参考のとおりです

・(基肥) N量：8.4kg/10a	※肥料銘柄：高度化成14
・(追肥) N量：3.3kg/10a	※肥料銘柄：軽量追肥
追肥実施日：5月20日	

(3) 冷害を避けるための適期の移植

・移植日：4月10日

(4) 適切な栽植密度、植付本数で植え付ける

・栽植密度：65株/坪
・植付本数：3.6本/株

4 考察等

6月中旬の低温により冷害による不稔障害が発生したため、収量が伸びなかった。

(参考) 多収品種に必要な施肥量

	アキヒカリ	夢あおば
基肥 N 量	4 kg/10a (粘質土の場合) 6 kg/10a (壤質土の場合) 9 kg/10a (砂質土の場合)	6 ~ 7 kg/10a (粘質土の場合) 9 kg/10a (壤質土の場合) 12 kg/10a (砂質土の場合)
穂肥 N 量	3 kg/10a	3 kg/10a

※穂肥は、幼穂形成期(幼穂が1~2mmの時期)に施用します

【印旛地域③】平成30年度 飼料用米多収品種現地実証展示ほ 成績の概要

1 展示の概要

設置場所	印西市	品種	べこあおば
土性	砂質土	播種日	3月31日
播種量	165g/箱	移植日	5月11日
幼穂形成期	7月5日	出穂期	7月26日
成熟期	8月30日	収穫日	9月9日

2 結果の概要(成熟期の調査結果と収量)

稈長	78cm	穂長	23.2cm
穂数	450本/m ²	倒伏程度	1
粗玄米重	533kg/10a	標準単収値	533kg/10a

3 多収に向けた栽培管理のポイント及びその取組実績

(1) ほ場の土づくりの実施

・堆肥種類：－	・施用量：－
・施用時期：－	

(2) 多収品種に必要な量の施肥 ※推奨量は、ページ下の参考のとおりです

・(基肥) N量：4.2kg/10a	※肥料銘柄：硫安
・(追肥) N量：8.4kg/10a、3.7kg/10a	※肥料銘柄：オール14
追肥実施日：6月13日、7月10日	

(3) 冷害を避けるための適期の移植

・移植日：5月11日

(4) 適切な栽植密度、植付本数で植え付ける

・栽植密度：52株/坪
・植付本数：3本/株

4 考察等

坪刈り収量は高かったが、ばか苗病による欠株が発生したため、実収量が伸びなかった。

(参考) 多収品種に必要な施肥量

	アキヒカリ	夢あおば
基肥 N 量	4 kg/10a (粘質土の場合) 6 kg/10a (壤質土の場合) 9 kg/10a (砂質土の場合)	6 ~ 7 kg/10a (粘質土の場合) 9 kg/10a (壤質土の場合) 12 kg/10a (砂質土の場合)
穂肥 N 量	3 kg/10a	3 kg/10a

※穂肥は、幼穂形成期(幼穂が1~2mmの時期)に施用します

【香取地域】平成 30 年度 飼料用米多収品種現地実証展示ほ 成績の概要

1 展示の概要

設置場所	東庄町	品種	アキヒカリ
土性	砂壤土	播種日	5月5日
播種量	5kg/10a(湛水直播)	移植日	—
幼穂形成期	7月3日	出穂期	7月26日
成熟期	8月27日	収穫日	8月30日

2 結果の概要(成熟期の調査結果と収量)

稈長	86.6cm	穂長	17.9cm
穂数	434本/m ²	倒伏程度	1.4
粗玄米重	700kg/10a	標準単収値	565kg/10a

3 多収に向けた栽培管理のポイント及びその取組実績

(1) ほ場の土づくりの実施

- ・堆肥種類：鶏糞
- ・施用量：150kg/10a
- ・施用時期：平成29年11月

(2) 多収品種に必要な量の施肥 ※推奨量は、ページ下の参考のとおりです

- ・(基肥) N量：11.7kg/10a ※肥料銘柄：飼料用米専用一発
 - ・(追肥) N量：2.1kg/10a ※肥料銘柄：硫安
- 追肥実施日：7月15日

(3) 冷害を避けるための適期の移植

- ・移植日(5月中旬を推奨)：—

(4) 適切な栽植密度、植付本数で植え付ける

- ・栽植密度(55株/坪を推奨)：59株/坪
- ・植付本数(4~6本/株を推奨)：9.8粒/株

4 考察等

幼穂形成期の追肥など、栽培管理のポイントに基づいた管理の実施によって、鉄コーティング湛水直播によっても、高い収量を得ることができた。

(参考) 多収品種に必要な施肥量

	アキヒカリ
基肥 N 量	9 kg/10a (砂質土の場合)
穂肥 N 量	3 kg/10a

※穂肥は、幼穂形成期(幼穂が1~2mmの時期)に施用します

【海匠地域】平成 30 年度 飼料用米多収品種現地実証展示ほ 成績の概要

1 展示の概要

設置場所	匠瑳市	品種	アキヒカリ
土性	砂壤土	播種日	3月25日
播種量	140g/箱	移植日	4月23日
幼穂形成期	6月15日	出穂期	7月8日
成熟期	8月14日	収穫日	8月18日

2 結果の概要(成熟期の調査結果と収量)

稈長	80.3cm	穂長	17.4cm
穂数	558本/m ²	倒伏程度	1.2
粗玄米重	673kg/10a	標準単収値	572kg/10a

3 多収に向けた栽培管理のポイント及びその取組実績

(1) ほ場の土づくりの実施

- ・堆肥種類：－
- ・施用量：－
- ・施用時期：－

(2) 多収品種に必要な量の施肥 ※推奨量は、ページ下の参考のとおりです

- ・(基肥) N量：10.3kg/10a ※肥料銘柄：スーパーらくだくん
- ・(追肥) N量：－ ※肥料銘柄：－
- 追肥実施日：－

(3) 冷害を避けるための適期の移植

- ・移植日(5月中旬を推奨)：4月23日

(4) 適切な栽植密度、植付本数で植え付ける

- ・栽植密度(55株/坪を推奨)：52.4株/坪
- ・植付本数(4～6本/株を推奨)：4本/株

4 考察等

幼穂形成期頃から茎数が過剰となったため、無効分けつの発生が多く、一部で倒伏等が発生したものの、高い収量を得ることができた。

(参考) 多収品種に必要な施肥量

	アキヒカリ
基肥 N 量	9 kg/10a (砂質土の場合)
穂肥 N 量	3 kg/10a

※穂肥は、幼穂形成期(幼穂が1～2mmの時期)に施用します

【山武地域①】平成30年度 飼料用米多収品種現地実証展示ほ 成績の概要

1 展示の概要

設置場所	山武市	品種	アキヒカリ
土性	壤質砂土	播種日	3月31日
播種量	160g/箱	移植日	4月26日
幼穂形成期	6月13日	出穂期	7月8日
成熟期	8月10日	収穫日	8月19日

2 結果の概要(成熟期の調査結果と収量)

稈長	75cm	穂長	17.4cm
穂数	378本/m ²	倒伏程度	—
粗玄米重	711kg/10a	標準単収値	556kg/10a

3 多収に向けた栽培管理のポイント及びその取組実績

(1) ほ場の土づくりの実施

- ・堆肥種類：—
- ・施用量：—
- ・施用時期：—

(2) 多収品種に必要な量の施肥 ※推奨量は、ページ下の参考のとおりです

- ・(基肥) N量：8.4kg/10a ※肥料銘柄：援農化成
- ・(追肥) N量：2.9kg/10a ※肥料銘柄：サンライトNKV1
追肥実施日：6月14日

(3) 冷害を避けるための適期の移植

- ・移植日(5月中旬を推奨)：4月26日

(4) 適切な栽植密度、植付本数で植え付ける

- ・栽植密度(55株/坪を推奨)：52株/坪
- ・植付本数(4~6本/株を推奨)：5.8本/株

4 考察等

病害虫の発生等もなく、栽培管理のポイントに基づいた管理の実施によって、高い収量を得ることができた。

(参考) 多収品種に必要な施肥量

	アキヒカリ
基肥N量	9kg/10a(砂質土の場合)
穂肥N量	3kg/10a

※穂肥は、幼穂形成期(幼穂が1~2mmの時期)に施用します

【山武地域②】平成30年度 飼料用米多収品種現地実証展示ほ 成績の概要

1 展示の概要

設置場所	山武市	品種	夢あおば
土性	砂壤土	播種日	4月8日
播種量	160g/箱	移植日	5月14日
幼穂形成期	6月26日	出穂期	7月21日
成熟期	9月14日	収穫日	9月19日

2 結果の概要(成熟期の調査結果と収量)

稈長	78.9cm	穂長	19.4cm
穂数	338本/m ²	倒伏程度	—
粗玄米重	678kg/10a	標準単収値	556kg/10a

3 多収に向けた栽培管理のポイント及びその取組実績

(1) ほ場の土づくりの実施

- ・堆肥種類：—
- ・施用量：—
- ・施用時期：—

(2) 多収品種に必要な量の施肥 ※推奨量は、ページ下の参考のとおりです

- ・(基肥) N量：8.4kg/10a ※肥料銘柄：援農化成
 - ・(追肥) N量：2.9kg/10a ※肥料銘柄：サンライトNKV1
- 追肥実施日：7月7日

(3) 冷害を避けるための適期の移植

- ・移植日(5月中旬を推奨)：5月14日

(4) 適切な栽植密度、植付本数で植え付ける

- ・栽植密度(55株/坪を推奨)：51株/坪
- ・植付本数(4~6本/株を推奨)：5.6本/株

4 考察等

夏場の高温による登熟歩合の低下があったが、栽培管理のポイントに基づいた管理の実施によって、高い収量を得ることができた。

(参考) 多収品種に必要な施肥量

	夢あおば
基肥N量	12kg/10a(砂質土の場合)
穂肥N量	3kg/10a

※穂肥は、幼穂形成期(幼穂が1~2mmの時期)に施用します

【長生地域】平成 30 年度 飼料用米多収品種現地実証展示ほ 成績の概要

1 展示の概要

設置場所	一宮町	品種	アキヒカリ
土性	砂壤土	播種日	4月2日
播種量	200g/箱	移植日	4月28日
幼穂形成期	6月11日	出穂期	7月7日
成熟期	8月13日	収穫日	8月20日

2 結果の概要(成熟期の調査結果と収量)

稈長	82cm	穂長	16.9cm
穂数	572本/m ²	倒伏程度	9割が多程度
粗玄米重	690kg/10a	標準単収値	542kg/10a

3 多収に向けた栽培管理のポイント及びその取組実績

(1) ほ場の土づくりの実施

- ・堆肥種類：－
- ・施用量：－
- ・施用時期：－

(2) 多収品種に必要な量の施肥 ※推奨量は、ページ下の参考のとおりです

- ・(基肥) N量：7.1kg/10a ※肥料銘柄：まろやかレッドペースト
 - ・(追肥) N量：1.5kg/10a ※肥料銘柄：ファイトNK
- 追肥実施日：6月18日

(3) 冷害を避けるための適期の移植

- ・移植日(5月中旬を推奨)：4月28日

(4) 適切な栽植密度、植付本数で植え付ける

- ・栽植密度(55株/坪を推奨)：55株/坪
- ・植付本数(4～6本/株を推奨)：5.4本/株

4 考察等

倒伏が発生したものの収穫に大きな支障はない程度であり、栽培管理のポイントに基づいた管理の実施によって、高い収量を得ることができた。

(参考) 多収品種に必要な施肥量

	アキヒカリ
基肥 N 量	9 kg/10a (砂質土の場合)
穂肥 N 量	3 kg/10a

※穂肥は、幼穂形成期(幼穂が1～2mmの時期)に施用します

【夷隅地域】平成 30 年度 飼料用米多収品種現地実証展示ほ 成績の概要

1 展示の概要

設置場所	いすみ市	品種	オオナリ
土性	粘質土	播種日	4月18日
播種量	150g/箱	移植日	5月28日
幼穂形成期	7月18日	出穂期	8月12日
成熟期	9月25日	収穫日	9月30日

2 結果の概要(成熟期の調査結果と収量)

稈長	83.1cm	穂長	24.6cm
穂数	348本/m ²	倒伏程度	0
粗玄米重	520kg/10a	標準単収値	528kg/10a

3 多収に向けた栽培管理のポイント及びその取組実績

(1) ほ場の土づくりの実施

・堆肥種類：－	・施用量：－
・施用時期：－	

(2) 多収品種に必要な量の施肥 ※推奨量は、ページ下の参考のとおりです

・(基肥) N量：10.4kg/10a	※肥料銘柄：飼料用米一発
・(追肥) N量：－	※肥料銘柄：－
追肥実施日：－	

(3) 冷害を避けるための適期の移植

・移植日：5月28日

(4) 適切な栽植密度、植付本数で植え付ける

・栽植密度：52株/坪
・植付本数：3本/株

4 考察等

7月にほ場が乾燥したため、一穂粒数が低くなり、収量が伸びなかった。

(参考) 多収品種に必要な施肥量

	アキヒカリ	夢あおば
基肥 N 量	4 kg/10a (粘質土の場合) 6 kg/10a (壤質土の場合) 9 kg/10a (砂質土の場合)	6 ~ 7 kg/10a (粘質土の場合) 9 kg/10a (壤質土の場合) 12 kg/10a (砂質土の場合)
穂肥 N 量	3 kg/10a	3 kg/10a

※穂肥は、幼穂形成期(幼穂が1~2mmの時期)に施用します

【安房地域】平成 30 年度 飼料用米多収品種現地実証展示ほ 成績の概要

1 展示の概要

設置場所	南房総市	品種	夢あおば
土性	埴壤土	播種日	3月19日
播種量	160g/箱	移植日	4月21日
幼穂形成期	6月23日	出穂期	7月18日
成熟期	8月27日	収穫日	8月27日

2 結果の概要(成熟期の調査結果と収量)

稈長	105cm	穂長	22cm
穂数	350本/m ²	倒伏程度	0
粗玄米重	730kg/10a	標準単収値	499kg/10a

3 多収に向けた栽培管理のポイント及びその取組実績

(1) ほ場の土づくりの実施

- ・堆肥種類：－
- ・施用量：－
- ・施用時期：－

(2) 多収品種に必要な量の施肥 ※推奨量は、ページ下の参考のとおりです

- ・(基肥) N量：10.5kg/10a ※肥料銘柄：高度化成
 - ・(追肥) N量：1.4kg/10a ※肥料銘柄：高度化成
- 追肥実施日：6月25日

(3) 冷害を避けるための適期の移植

- ・移植日(5月中旬を推奨)：4月21日

(4) 適切な栽植密度、植付本数で植え付ける

- ・栽植密度(55株/坪を推奨)：52株/坪
- ・植付本数(4～6本/株を推奨)：－

4 考察等

粗玄米重は高かったものの、紋枯病により登熟歩合が低くなり、くず米の発生が多かった。

(参考) 多収品種に必要な施肥量

	夢あおば
基肥 N 量	9 kg/10a (壤質土の場合)
穂肥 N 量	3 kg/10a

※穂肥は、幼穂形成期(幼穂が1～2mmの時期)に施用します

【君津地域】平成 30 年度 飼料用米多収品種現地実証展示ほ 成績の概要

1 展示の概要

設置場所	木更津市	品種	アキヒカリ
土性	砂土	播種日	3月21日
播種量	160g/箱	移植日	4月22日
幼穂形成期	6月13日	出穂期	7月7日
成熟期	8月13日	収穫日	8月16日

2 結果の概要(成熟期の調査結果と収量)

稈長	83cm	穂長	18.1cm
穂数	472本/m ²	倒伏程度	0.5
粗玄米重	600kg/10a	標準単収値	529kg/10a

3 多収に向けた栽培管理のポイント及びその取組実績

(1) ほ場の土づくりの実施

- ・堆肥種類：牛糞堆肥
- ・施用量：2,000kg/10a
- ・施用時期：平成29年9月（5年以上連用）

(2) 多収品種に必要な量の施肥 ※推奨量は、ページ下の参考のとおりです

- ・（基肥）N量：3.9kg/10a ※肥料銘柄：飼料用米専用一発15
- ・（追肥）N量：－ ※肥料銘柄：－
追肥実施日：－

(3) 冷害を避けるための適期の移植

- ・移植日（5月中旬を推奨）：4月22日

(4) 適切な栽植密度、植付本数で植え付ける

- ・栽植密度（55株/坪を推奨）：53株/坪
- ・植付本数（4～6本/株を推奨）：4.6本/株

4 考察等

堆肥を施用したレタス栽培の後作であるため施肥量を少なくしたほか、栽培管理のポイントに基づいた管理の実施によって、高い収量を得ることができた。

(参考) 多収品種に必要な施肥量

	アキヒカリ
基肥N量	9kg/10a（砂質土の場合）
穂肥N量	3kg/10a

※穂肥は、幼穂形成期（幼穂が1～2mmの時期）に施用します